梅原の子

Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和7年3月25日号

学校・保護者・地域で送り出す卒業式

校長　埴岡　靖司

今年は、梅の花が卒業生を祝うかのように、例年よりゆっくりと満開になりました。令和6年度は、12名の卒業生を送り出し、新たな梅原小学校の卒業生が誕生します。ここで、式辞の一部を紹介します。

今年の卒業生の姿を見ている中で、今年度アメリカの野球殿堂入りをしたイチローさんの次の言葉が思い浮かびました。

「やっぱり不完全であるというのはいいな。」

イチローさんは先ほどの言葉の後、次のように話しています。「生きていくうえで不完全だから進もうとできる。」と。「もっと、野球がうまくなりたい。」といつも前向きに自分を高めてきた、イチローさんの考え方が伝わってきました。

「不完全である」は、今成長の途中であるあなたたちにもあてはまる言葉でしょう。みなさんはこれまでの生活の中、様々な関係の中で、多くの悩み事に折り合いを付けながら、これから先の未来のことを考えて過ごしていたのを、私は見ていました。楽しいことだけでなく、苦しいこともあったでしょう。

だからこそ、私は皆さんにこれだけは伝えたいです。「未来は、自分でどのようにでもつくっていける。」と。イチローさんのように、「もっと」から始まる言葉で、あなたが考える未来を、たくさん想像しほしい。そして、「今」できることを大切に、これからの生活を楽しんでほしいと願っています。

予測ができない今の時代、何が正解なのかがわからない中で、その時々に最適なことを選択して進んでいるように思います。そして、その選択の後ろ盾になる経験ができるのが、梅原小学校だと考えています。今年も、寒の時期のみそづくりや、豆腐づくり、餅つきと、季節に合わせた体験をしました。多くの体験を通して、自分のやってみたいことが見つかると、私は強く思っています。

卒業生のみなさんには、梅原小学校を卒業したことを誇りに思い、これからも胸をはって進んでほしいと願っています。

☆☆☆